

## 東洋史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋古代中世史特論Ⅰ	六朝時代の諸問題	2	川合 安	1学期	金	2	東洋古代中世史特論Ⅰ
東洋古代中世史特論Ⅱ	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	2学期	金	2	東洋古代中世史特論Ⅱ
東洋古代中世史特論Ⅲ	中国古代都城の設計と思想	2	佐川 英治	集中(2学期)			東洋古代中世史特論Ⅲ
東洋近世史特論Ⅰ	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	1学期	火	5	東洋近世史特論Ⅰ
東洋近世史特論Ⅱ	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	2学期	火	5	東洋近世史特論Ⅱ
東洋近世史特論Ⅲ	清朝とモンゴル	2	岡 洋樹	1学期	水	4	東洋近世史特論Ⅲ
東洋近世史特論Ⅳ	17世紀のマカオとアジア	2	中砂 明德	集中(1学期)			東洋近世史特論Ⅳ
東洋史学研究演習Ⅰ	『宋書』礼志の研究Ⅰ	2	川合 安	1学期	金	5	東洋古代中世史研究演習Ⅰ
東洋史学研究演習Ⅱ	『宋書』礼志の研究Ⅱ	2	川合 安	2学期	金	5	東洋古代中世史研究演習Ⅱ
東洋史学研究演習Ⅲ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	1学期	水	5	東洋近世史研究演習Ⅰ
東洋史学研究演習Ⅳ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	2学期	水	5	東洋近世史研究演習Ⅱ

科目名：東洋古代中世史特論 I / Ancient and Medieval History in Asia (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LM15203， 科目ナンバリング：LGH-HIS601J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史特論 I 】

1. 授業題目：

六朝時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of The Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要：

中国の六朝時代（魏晋南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course covers the history of the Six Dynasties time (220-589) to help students understand the characteristics of the Six Dynasties in Chinese history.

5. 学習の到達目標：

六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Six Dynasties time.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、六朝時代の概略
- 2、秦漢古代帝国の概要
- 3、九品官人法の制定と魏の貴族
- 4、九品官人法の制定と西晋の貴族
- 5、東晋の貴族
- 6、宋・齊の貴族
- 7、宋・齊の貴族的官制
- 8、宋・齊の新興貴族
- 9、梁の武帝の改革と貴族
- 10、北魏前期の鮮卑貴族と漢人貴族
- 11、北魏・孝文帝の改革と貴族
- 12、北魏末期の貴族
- 13、北齊の貴族
- 14、北周の貴族
- 15、総括と展望

8. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート 70%

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布

参考書：川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。ほかは、講義中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋古代中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LM25203， 科目ナンバリング：LGH-HIS602J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史特論Ⅱ】

**1. 授業題目：**

隋唐時代の諸問題

**2. Course Title (授業題目)：**

Subjects of Sui and Tang dynasties

**3. 授業の目的と概要：**

隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

This course covers the political history of Sui and Tang dynasties (589-907) to help students understand the characteristics of the Sui and Tang dynasties in Chinese history.

**5. 学習の到達目標：**

隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Sui and Tang dynasties.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1、ガイダンス、隋唐時代の概略
- 2、隋王朝の政治
- 3、貞観の治
- 4、則天武後の時代
- 5、玄宗の時代
- 6、安史の乱
- 7、安史の乱後の情勢
- 8、徳宗の時代
- 9、憲宗の時代
- 10、甘露の変
- 11、武宗の時代
- 12、武宗の廃仏
- 13、宣宗の時代
- 14、黄巢の乱
- 15、総括

**8. 成績評価方法：**

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート70%

**9. 教科書および参考書：**

教科書：資料を配布する。

参考書：布目潮渾・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。その他、授業中に紹介する。

**10. 授業時間外学習：**

授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：東洋古代中世史特論Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：集中（2学期）、 単位数：2

担当教員：佐川 英治（非常勤講師）

講義コード：LM98821、 科目ナンバリング：LGH-HIS603J、 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史特論Ⅲ】

1. 授業題目：

中国古代都城の設計と思想

2. Course Title (授業題目)：

Capital City Planning in Ancient China and Its Underpinning Ideas

3. 授業の目的と概要：

この授業では、東アジア都城の模範となった唐の長安城のプランがどのようにして生まれたのかを歴史的に考察する。唐の長安城のプランは日本の平城京や渤海の上京に採用されたために、中国の典型的な都城プランと思われがちであるが、実はそのプランは伝統的な都城のプランとは大きく異なるものであった。ではそれはいつどのようにして生まれたのか。このことは前世紀の初めから研究者によって繰り返し問われてきたことである。ただし、従来の研究ではこの問題を都城の外形的特徴から考察してきたために、見る側の主観が入りやすく、何に注目するかによってどの時期に画期を置くかが異なってきた。そこで本授業では、最新の発掘成果を利用して都城の復元をおこなうとともに、文献学的な立場から各時代の都城をめぐる議論を整理し、漢代から唐代にかけての設計の起点が宗廟から南郊、そして円丘へと移っていったことを明らかにする。これらはいずれも皇帝祭祀の施設であり、宗廟→南郊→円丘へという変遷は、皇帝祭祀の重点がしだいに祖先の祭祀から天の祭祀へと移っていったことを示すものである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Chang'an is the capital of the Tang dynasty, which became a model for other capital cities in East Asia. This lecture examines in historical perspective how the city plans for Chang'an of the Tang dynasty had been formed. In this lecture, I make use of the latest archaeological findings to reconstruct the capital cities in ancient times, summarizing the debates on the capital cities of each period in terms of philology and paying attention to what the people of each period set the starting point at when they designed their capital cities. I also show how the starting point in the planning of capital cities shifted from the imperial ancestral temple to the capital's southern suburbs and then to the Circular Altar between suggests that the focus of imperial sacrifices gradually shifted from the worship of imperial ancestors to the worship of Heaven.

5. 学習の到達目標：

1. 文献資料と考古資料を用いた中国古代都城の復元方法について習得する。
2. 漢代から唐代にかけての皇帝祭祀と政治思想について理解する。
3. 北朝における遊牧文化の影響について理解する。
4. 日本の藤原京や平城京が中国の都城から受けた影響について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. Students learn about how to reconstruct the capital cities in ancient China using archaeological and historical resources.
2. Students understand the history of the emperor worship and political thought from the Han Dynasty to the Tang Dynasty.
3. Students understand the influence of nomadic culture in the North Dynasties.
4. Students understand the influence that the capital city planning of China had on Fujiwarakyo and Heijyokyo in Japan.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義方式でおこなう。

1. ガイダンス
2. 『周礼』考工記
3. 始皇帝の都城
4. 前漢長安城
5. 後漢洛陽城
6. 曹魏鄴城
7. 魏晉洛陽城
8. 南朝建康城
9. 北魏平城
10. 北魏洛陽城
11. 北齊鄴城と北周長安城
12. 隋唐長安城
13. 新羅王京
14. 日本藤原京と平城京
15. まとめと試験

**8. 成績評価方法：**

筆記試験によって評価する。

**9. 教科書および参考書：**

参考書

佐川英治『中国古代都城の設計と思想』勉誠出版、2016年

窪添慶文『魏晋南北朝史のいま』勉誠出版、2017年

**10. 授業時間外学習：**

予習として『宮崎市定全集 7』（岩波書店）の「六朝時代華北の都市」「漢代の里制と唐代の坊制」、楊寛『中国都城の起源と発展』（学生社）、陳寅恪『隋唐制度淵源略論稿』（商務印書館）の「都城」を読んでおくことが望ましい。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：東洋近世史特論Ⅰ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LM12505， 科目ナンバリング：LGH-HIS604J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国における社会と官僚制度・教育制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学習の到達目標：

JIE ZHAO 著” BRUSH, SEAL and ABACUS-Troubled Vitality in Late Ming China’s Economic Heartland, 1500-1644” を題材にして、明朝時代の江南社会における知識人と商人の交流について理解を深める。同時に、近世中国王朝の官僚機構と教育システムについて基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students read the ”BRUSH, SEAL and ABACUS-Troubled Vitality in Late Ming China’s Economic Heartland, 1500-1644” by JIE ZHAO and consider about the exchange between intellectuals and merchants in JiangNan society during the Ming Dynasty. And students learn basic knowledge about the bureaucracy and education system of the early modern Chinese dynasty. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 中国近世史の諸問題Ⅰー（1）及び行政制度の基礎知識

3. 中国近世史の諸問題Ⅰー（2）及び行政制度の基礎知識

4. 中国近世史の諸問題Ⅰー（3）及び社会構造の基礎知識

5. 中国近世史の諸問題Ⅰー（4）及び社会構造の基礎知識

6. 中国近世史の諸問題Ⅰー（5）及び法律制度の基礎知識

7. 中国近世史の諸問題Ⅰー（6）及び行政区画の基礎知識

8. 中国近世史の諸問題Ⅰー（7）及び行政区画の基礎知識

9. 中国近世史の諸問題Ⅰー（8）及び科举制度の基礎知識

10. 中国近世史の諸問題Ⅰー（9）及び科举制度の基礎知識

11. 中国近世史の諸問題Ⅰー（10）及び人事制度の基礎知識

12. 中国近世史の諸問題Ⅰー（11）及び人事制度の基礎知識

13. 中国近世史の諸問題Ⅰー（12）及び科举と近世中国社会に関する討論（1）

14. 中国近世史の諸問題Ⅰー（13）及び科举と近世中国社会に関する討論（2）

15. 中国近世史の諸問題Ⅰー（14）及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:”○”Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋近世史特論Ⅱ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LM22505， 科目ナンバリング：LGH-HIS605J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史特論Ⅱ】

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国における社会と官僚制度、教育制度についての基礎的知識を身につけると同時に、英語で書かれた中国史の研究論文の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国の社会と官僚制度、教育システムについて基本的な知識を学ぶ。後期も前期に引き続いて、JIE ZHAO の“BRUSH, SEAL and ABACUS-Troubled Vitality in Late Ming China’s Economic Heartland, 1500-1644”を読む予定である。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research. In the second semester, we plan to read “BRUSH, SEAL and ABACUS-Troubled Vitality in Late Ming China’s Economic Heartland, 1500-1644” by JIE ZHAO, following the first semester. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題Ⅱー（1）及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題Ⅱー（2）及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題Ⅱー（3）及び商業史の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題Ⅱー（4）及び商業史の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題Ⅱー（5）及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題Ⅱー（6）及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題Ⅱー（7）及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題Ⅱー（8）及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題Ⅱー（9）及び科举制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題Ⅱー（10）及び科举制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題Ⅱー（11）及び科举制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題Ⅱー（12）及び社会構造と科举制度に関する討論
14. 中国近世史の諸問題Ⅱー（13）及び経済構造と科举制度に関する討論
15. 中国近世史の諸問題Ⅱー（14）及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：東洋近世史特論Ⅲ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：岡 洋樹（非常勤講師）

講義コード：LM13403， 科目ナンバリング：LGH-HIS606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史特論Ⅲ】

1. 授業題目：

清朝とモンゴル

2. Course Title (授業題目)：

The Qing and the Mongols

3. 授業の目的と概要：

本講義では、中国最後の王朝であり、17 世紀にマンジュにより建国された大清国のモンゴルにおける統治の歴史的性格について考察することを通じて、清朝の統治が、中国王朝や、北元末期のモンゴル遊牧民統治の系譜を合わせもつものであることを論じる。またこれにより、今日の中国にも面影を残す多文化・多民族性の歴史的文脈を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, the historical nature of the Qing's rule over mongolian nomadic society is discussed. The Qing or Daicing gurun was China's last dynasty established by the Manchu in the beginning of the seventeenth century. This dynasty's multicultural nature was in its historical context of the North Asian nomadic states as well as in the one of Chinese dynastic tradition. Through this class, students are expected to understand the historical multiplicity of China's statecraft.

5. 学習の到達目標：

受講者は、この講義を通じて以下の論点について理解を得る。

1. モンゴル史上における清朝統治の歴史的文脈。
2. モンゴルに対する清の統治に組み込まれた遊牧国家政体の特徴
3. 近代史における清朝の多文化統治の遺産

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students are expected to understand these points presented below.

1. The historical context of the Qing's rule over Mongolia in Mongolian history.
2. The characteristics of nomadic statecraft which was incorporated into the Qing's rule over Mongolia. Leagues, Banners, Noble princes, Military style organization of nomadic society etc.
3. The heritage of the multicultural rule of the Qing in the modern history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義では、以下の内容について論じる。

1. 清朝によるモンゴル征服の過程  
この部分では、清朝によるモンゴル征服の政治的過程を概観する。その際とくに 17 世紀前半における内モンゴル地域の征服過程に焦点を当て、清の征服がモンゴルの政治体制の特徴に深く規定されながら進行したことを論じる。
2. 清朝の「外藩」体制  
この部分では、清の「外藩」と呼ばれる統治システムについて概観する。その際、清朝統治のいくつかの要素に着目する。すなわち合議体としての盟 (cighulghan)、統治機構としての旗 (qosighu) と佐領 (sumu) 及びザサグ (旗長)
3. 清朝統治下のモンゴル人の生活  
この部分では、清代の普通のモンゴル人に生じた生活の変化のいくつかについて論じる。特にこの問題にアプローチする方法として、18 世紀の家畜窃盗に関わる満文史料の分析から得られる知見を用いる。

8. 成績評価方法：

レポート 50%、出席 50%

9. 教科書および参考書：

参考書

- 小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア研究入門』東京；山川出版社、2018 年  
小松久男編『中央ユーラシア史 新版世界各国史 4』東京；山川出版社、2000 年  
護雅夫・岡田英弘編『中央ユーラシアの世界 民族の世界史 4』東京；山川出版社、1990 年  
岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東京；東方書店、2007 年  
宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで』東京；刀水書房、2002 年  
萩原守『清代モンゴルの裁判と裁判文書』東京；創文社、2006 年

10. 授業時間外学習：

受講者は、授業時間外にシラバスに挙げた参考文献や講義の中で紹介する文献を読み、講義の内容の理解に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：



科目名：東洋近世史特論Ⅳ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中（1学期）、 単位数：2

担当教員：中砂 明德（非常勤講師）

講義コード：LM98822, 科目ナンバリング：LGH-HIS607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史特論Ⅳ】

1. 授業題目：

17世紀のマカオとアジア

2. Course Title (授業題目)：

Macau and Asia in the 17th Century

3. 授業の目的と概要：

本講義では、16世紀にポルトガル人の居住地となったマカオが、17世紀のアジア・ヨーロッパにおける変動（明清交代、日本の鎖国、オランダ・イギリスのアジア進出、ポルトガルのスペインからの独立等）により、どのように変容していったかを理解してもらうとともに、マカオとかわった諸地域の状況にも言及することで、17世紀の東・東南アジアの変化の性格について考察する手がかりを提供することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course covers the history of transformation of Macau, which became a Portuguese settlement in the 16th century, by changes in Asia and Europe in the 17th century (such as the transition from Ming to Qing, the isolation of Japan, Dutch and English advance into Asia, and the independence of Portugal from Spain), and provides a clue to study the nature of change in East and Southeast Asia in the 17th century, by referring to the situation in various regions related to Macau.

5. 学習の到達目標：

中国にとってもヨーロッパにとっても周縁であるマカオの歴史を見ることで、周縁からの歴史を見る視点を養うことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Looking at the history of Macau, which is a periphery for both China and Europe, can provide a perspective on history from the periphery.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. マカオ研究の現状
2. 16世紀のマカオ
3. オランダ人の来航
4. マカオの日本人
5. マニラとの関係
6. オランダ人の来襲
7. 日本での殉教
8. 砲兵隊の北京行き
9. 東南アジアへの布教
10. 日本の鎖国
11. ポルトガル独立の余波
12. オランダ人の朝貢
13. ポルトガル人の朝貢
14. 清朝人から見たマカオ
15. イギリス人、フランス人の来航及び全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席・授業への取り組み 20% 課題レポート 80%

9. 教科書および参考書：

参考書：岡美穂子『商人と宣教師 南蛮貿易の世界』東京大学出版会、2010。Charles Boxer, Fidalgos in the Far East, Oxford University Press (2nd Revised), 1969

10. 授業時間外学習：

配布されるプリントにより授業内容を復習し、疑問点を翌日の授業時に質問すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

必要に応じてプリントを配布する。

科目名：東洋史学研究演習 I / History in Asia(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LM15502， 科目ナンバリング：LGH-HIS608J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史研究演習 I 】

1. 授業題目：

『宋書』礼志の研究 I

2. Course Title (授業題目)：

A study of SONGSHU LIZHI

3. 授業の目的と概要：

中国南朝時代の同時代史料たる沈約『宋書』の礼志を読む。南朝史料に特有の語彙や語法を習得するほか、官僚制度や礼制など、史料読解に必須の事項についての理解を深める。担当者は、担当部分についての訳注を作成して提出の上、その訳注について発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

By reading “Li Zhi” (礼志：a chapter about ritual systems) in “Song Shu” (宋書：History of Liu Song), students can deepen their understanding of historical documents of the Southern Dynasties, which differ from other classical Chinese documents terminologically and stylistically.

5. 学習の到達目標：

独特の用語を含んで難解な南朝史料の訳注を作成できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students translate historical documents of the Southern Dynasties into Japanese with notes.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『宋書』巻16 礼志三を読み、訳注作成作業を行う。

- 1、ガイダンス、『宋書』礼志とはどのような史料か
- 2、『宋書』礼志訳注作成の実例
- 3、『宋書』礼志を読む (1) 大明二年 (458) の南郊
- 4、『宋書』礼志を読む (2) 泰始二年 (466) の郊祀をめぐる議論
- 5、『宋書』礼志を読む (3) 泰始六年 (470) の郊祀・明堂をめぐる議論
- 6、『宋書』礼志を読む (4) 地祇の祭祀
- 7、『宋書』礼志を読む (5) 劉宋初の天地の祭祀に関する上奏
- 8、『宋書』礼志を読む (6) 劉宋・孝武帝の明堂祭祀
- 9、『宋書』礼志を読む (7) 祭祀の犠牲に関する議論
- 10、『宋書』礼志を読む (8) 三国・魏の明帝期の封禪の議論
- 11、『宋書』礼志を読む (9) 西晋平呉の際の封禪の議論
- 12、『宋書』礼志を読む (10) 西晋・武帝、封禪を行わず
- 13、『宋書』礼志を読む (11) 劉宋期における封禪の議論
- 14、『宋書』礼志を読む (12) 劉宋・孝武帝、封禪を行わず
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

発表内容 70%、訳注検討への参加状況 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

10. 授業時間外学習：

訳注作成担当者は、授業時間前に訳注を作成する。担当者以外も、授業で訳注の検討に加わることができるように、あらかじめ授業で読む部分に目を通し、疑問点を整理しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史学研究演習Ⅱ／History in Asia(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LM25502， 科目ナンバリング：LGH-HIS609J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

『宋書』礼志の研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

A study of SONGSHU LIZHI

3. 授業の目的と概要：

『宋書』礼志の研究Ⅰの作業を継続するほか、Ⅱにおいては特に南朝における上奏文の形式や、合意形成の方法についての理解を深めつつ、当時の政治、制度、社会の実態究明を行えるようになることを目指す。担当者は、担当部分についての訳注を作成して提出の上、それについて発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。さらに、学期後半の授業では訳注作成の成果を踏まえた研究発表を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

By reading “Li Zhi” (礼志：a chapter about ritual systems) in “Song Shu” (宋書：History of Liu Song), students can deepen their understanding of historical documents of the Southern Dynasties, which differ from other classical Chinese documents terminologically and stylistically.

5. 学習の到達目標：

訳注作成能力を向上させ、学術論文作成の基礎を確立する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students translate historical documents of the Southern Dynasties into Japanese with notes.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1、ガイダンス

2、『宋書』礼志を読む(1) 三国・魏の宗廟(1)

3、『宋書』礼志を読む(2) 三国・魏の宗廟(2)

4、『宋書』礼志を読む(3) 三国・魏の陵寝

5、『宋書』礼志を読む(4) 三国・呉の宗廟

6、『宋書』礼志を読む(5) 西晋・東晋の宗廟(1)

7、『宋書』礼志を読む(6) 西晋・東晋の宗廟(2)

8、『宋書』礼志を読む(7) 西晋・東晋の宗廟(3)

9、『宋書』礼志を読む(8) 劉宋の宗廟

10、『宋書』礼志を読む(9) 東晋の宗廟祭祀(1)

11、『宋書』礼志を読む(10) 東晋の宗廟祭祀(2)

12、『宋書』礼志を読む(11) 東晋の宗廟祭祀(3)

13、『宋書』礼志に関する研究発表(1)

14、『宋書』礼志に関する研究発表(2)

15、授業の総括

8. 成績評価方法：

発表内容70%、訳注検討や研究発表への参加状況30%

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

10. 授業時間外学習：

担当者は、訳注や研究発表の資料を事前に準備する。担当者以外も、訳注や研究発表についての検討に参加できるように、あらかじめ授業で読む部分や研究発表資料に目を通して、疑問点などを整理しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

『宋書』礼志の研究Ⅰとの連続履修が望ましい。

科目名：東洋史学研究演習Ⅲ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LM13505， 科目ナンバリング：LGH-HIS610J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史研究演習Ⅰ】

**1. 授業題目：**

明清官僚制度研究Ⅰ

**2. Course Title (授業題目)：**

Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

**3. 授業の目的と概要：**

明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

Students will read carefully the historical documents of the Ming Qing period and develop basic reading skills crucial to understanding historical texts used in academic research. Moreover, Students will learn basic methods to study political institutions, bureaucracy and so on in Early Modern China.

**5. 学習の到達目標：**

中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

Through the reading of the primary historical materials of Ming Qing China, students will accustom to the basic form of the official document which is essential for analyzing the bureaucracy and society at the time. All students will give a presentation in every class by Japanese.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究Ⅰー(1)
3. 明清官僚制度研究Ⅰー(2)
4. 明清官僚制度研究Ⅰー(3)
5. 明清官僚制度研究Ⅰー(4)
6. 明清官僚制度研究Ⅰー(5)
7. 明清官僚制度研究Ⅰー(6)
8. 明清官僚制度研究Ⅰー(7)
9. 明清官僚制度研究Ⅰー(8)
10. 明清官僚制度研究Ⅰー(9)
11. 明清官僚制度研究Ⅰー(10)
12. 明清官僚制度研究Ⅰー(11)
13. 明清官僚制度研究Ⅰー(12)
14. 明清官僚制度研究Ⅰー(13)
15. 明清官僚制度研究Ⅰー(14)及びまとめ

**8. 成績評価方法：**

発表内容（平常点）。

**9. 教科書および参考書：**

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

**10. 授業時間外学習：**

毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：東洋史学研究演習Ⅳ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LM23505， 科目ナンバリング：LGH-HIS611J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史研究演習Ⅱ】

**1. 授業題目：**

明清官僚制度研究Ⅱ

**2. Course Title (授業題目)：**

Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

**3. 授業の目的と概要：**

明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

Students will read carefully the historical documents of the Ming Qing period and develop basic reading skills crucial to understanding historical texts used in academic research. Moreover, students will learn basic methods to study political institutions, bureaucracy and so on in Early Modern China.

**5. 学習の到達目標：**

1学期に引き続き、中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

In the second semester, following the first semester, through the reading of the primary historical materials of Ming Qing China, students will accustom to the basic form of the official document which is essential for analyzing the bureaucracy and society at the time. All students will give a presentation in every class by Japanese.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究Ⅱー（1）
3. 明清官僚制度研究Ⅱー（2）
4. 明清官僚制度研究Ⅱー（3）
5. 明清官僚制度研究Ⅱー（4）
6. 明清官僚制度研究Ⅱー（5）
7. 明清官僚制度研究Ⅱー（6）
8. 明清官僚制度研究Ⅱー（7）
9. 明清官僚制度研究Ⅱー（8）
10. 明清官僚制度研究Ⅱー（9）
11. 明清官僚制度研究Ⅱー（10）
12. 明清官僚制度研究Ⅱー（11）
13. 明清官僚制度研究Ⅱー（12）
14. 明清官僚制度研究Ⅱー（13）
15. 明清官僚制度研究Ⅱー（14）及びまとめ

**8. 成績評価方法：**

発表内容（平常点）。

**9. 教科書および参考書：**

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

**10. 授業時間外学習：**

毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

**12. その他：**

